

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

インド カンドゥクール地域開発プログラム(IND-195545)



ADPから支援されたカバンを持って、姉と通学するラニちゃん(6歳)写真左

チャイルドストーリー

支援を受けて栄養状態が良くなり、健康を取り戻したラニちゃん

カンドゥクール地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすラニちゃんは、数年前に父親を亡くしました。今は母親と姉、祖父とともに暮らしています。日雇い労働者の母親は、朝7時前に働きに出かけ、夜遅く帰宅します。カンドゥクールの村々は、インドで最も干ばつが起りやすく農業が難しい地域であるため、日雇い労働で生計を立てている家庭がほとんどです。

ラニちゃんは4歳の頃、栄養不良のためADPの栄養改善プログラムの対象となり、半年間栄養価の高い食事の提供を受けました。母親も健康に良い食事作りの実習を受けました。また、家族はこのプログラムの支援によって乳牛を受け取りました。これらの支援によって、ラニちゃんは毎日牛乳を飲むことができるようになり、余った牛乳を市場で売ることによって追加の収入を得ることができるようになりました。「私の娘はとても体が弱かったのですが、栄養改善プログラムを受けて健康状態は改善され、今はとても元気です」と母親は嬉しそうに話します。

「学校は近くなので、お姉ちゃんと一緒に歩いて学校に行っています。」栄養改善プログラムのおかげでラニちゃんは活発な健康優良児となり、支援によって受け取った通学用バッグを持って姉と仲良く学校に通っています。



ラニちゃん(中央)と姉、祖父。祖父は母親が働いている日中、子どもたちを愛情深く世話しています

栄養プロジェクト

5歳以下の子どもたちの栄養改善に取り組んでいます

2014年度も、支援地域の子どもたちにとって最も大きな課題である栄養不良の改善に取り組みました。支援地域の17カ所に設置した栄養改善センターで、特に栄養状態の悪い5歳以下の子ども192人を対象に栄養改善プログラムを実施。母親たちに栄養や子どもの健康についての講習を行いながら、それぞれが持ち寄った食材で作った栄養バランスのとれた食事と、ADPが支給した補助食品を、90日間子どもたちに与えました。その結果、192人全員の栄養状態が回復しました。また、自宅でも栄養価の高い食事を提供できるよう、特に貧しい320世帯に家庭菜園を始めるための資材

やトレーニングを提供し、145世帯にトイレの建設を支援しました。さらに、母乳育児や手洗いについての啓発活動を行ったほか、政府が無料で提供している保健サービスについての情報を広め、必要に応じて適切なケアを受けるよう働きかけています。



192人が
栄養改善プログラムに参加



日雇いで働く両親が作った家庭菜園を見せてくれたモーゼス君（9歳）。家庭菜園で採れる野菜は家族の貴重な栄養源です



家庭菜園で水やりを手伝うハリタちゃん（8歳）。野菜栽培を始めてから、毎日きちんと食事が摂れるようになりました

指導者育成プロジェクト

支援の成果が持続するよう、住民自身の自主性向上を目指しています

行政機関の協力のもと、読み書きができない大人と、学校に通っていない子どもたちを対象にした識字教室を開催し、2,100人が参加。90日間にわたって読み書きを学びました。参加した大人たちは、自分自身が学ぶことによって教育の大切さを実感し、教育が子どもの人生で果たす様々な役割について理解するようになっていきます。また2014年度は、特に栄養プロジェクトで実施した啓発活動やトレーニングを通して、母親や住民グループ、行政機関などのリーダーシップ強化を行いました。



社会福祉制度についてのトレーニングを受ける母親たち



識字教室に
2,100人が参加

経済開発プロジェクト

最も貧しい世帯の生計向上を支援しています

支援地域の中でも特に貧しいのが、土地を持たず、日雇いで生計を立てている世帯です。ADPではこれらの世帯が日雇い以外の収入源を持てるよう、356世帯に小規模ビジネスを始めるためのミシン、大工道具、三輪タクシーなどをそれぞれの能力に応じて支給しました。少しずつ収入が増えて日々の必要を満たすだけでなく、貯蓄をし、借金を返済できるようになった世帯も出てきています。また、乳牛の飼育トレーニングを実施し30人が参加したほか、自助グループのメンバー 90人を対象に帳簿のつけ方のトレーニングを実施しました。

\$ 356世帯の
小規模ビジネスを支援



刺繍や手縫いのトレーニングを受けて安定した収入を得ることができるようになったラマンナさん(25歳)



地域の女性のインタビュー

栄養改善プログラムに参加して娘の健康状態が良くなりました

Q.ADPのどのような支援を受けましたか。

ADPの短期訓練コースで洋裁を習いました。また、衣料品を扱う小さなビジネスを始める資金を援助してもらい、その資金をもとに、服を仕入れて近くの村に出かけて売る仕事を始めることができました。私の娘は年齢の割に体重がとても軽く、栄養不良だったのですが、3か月にわたって栄養改善プログラムの支援を受けました。

Q.ADPの活動に参加してどのような変化がありましたか。

娘の健康状態が劇的に良くなりました。今は小学校に通っています。私は「母親の会」に入り、村中をまわって栄養や子どもの健康について教えています。ADPによる訓練のおかげで、私は大勢の前で意見を言う自信が持てるようになりました。私のビジネスも順調で、安定した収入を得ることができています。そのおかげで、子どもたちを学校に通わせて勉強させることができます。支援に本当に感謝しています。

Q.今の夢を教えてください。

子どもたちが一生懸命勉強して、良い仕事に就くことです。また、衣料品を販売する小さな店を持てたら嬉しいです。



支援地域に住むヴィジャヤラクシュミさん(29歳) 写真右。娘とともに



ADP スタッフ・インタビュー

Q.ADPでどのような仕事をしていますか。

30の村に住む約300人の子どもたちを担当しており、ほぼ毎日支援地域内の村を訪問しています。子どもたちが学校に通っているかを確認し、もし通っていない子どもがいたら、家族に教育の重要性を説明し、子どもが学校に行けるよう話し合います。そして必要に応じて、通学カバンやノートといった支援を手配します。また、支援地域の家庭と面談することで、地域の人々が抱える問題を把握し、支援に生かしています。

Q.あなたがWVで働き続ける原動力は何ですか。

私自身も貧しい家庭で育ったので、貧しい家庭の子どもたちを見ていると、自分が幼かった頃のことを思い出



カンドゥクールADPスタッフ ダニエル・ドッカ (51歳)

ます。両親は私に教育を受けさせるために必死でした。家が貧しいために学校に通えない子どもたちを目にするのは辛いものです。子どもたちの最低限の必要はせめて満たしてあげたいですし、与えられた才能を伸ばし、良い将来を得られるように助けたいと思っています。

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



「子どもクラブ」に参加する支援地域の子どもたち

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

また、2013年11月に大型サイクロン「ファイリン」が発生した際に、カンドゥクールADPの支援地域では死者は出ませんでした。多くの家屋に被害が出ました。ADPでは緊急支援として、350世帯に毛布や調理器具などの物資を支給しました。

会計報告

IND-195545

収支計算書 自 2013年 10月1日 至 2014年 9月30日

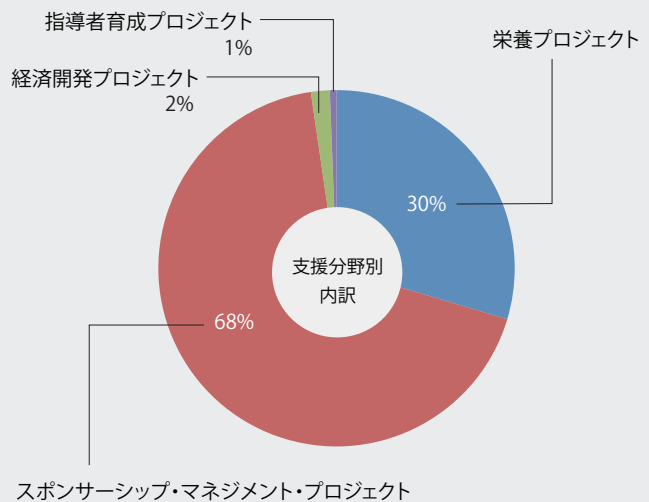
プログラム支援額 (単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	22,115,134
当期支援額	22,115,134
前期繰越金	3,064,487
プログラム支援額合計	25,179,621

プログラム支出額

栄養プロジェクト	7,214,958
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	16,584,919
経済開発プロジェクト	415,389
指導者育成プロジェクト	146,905

プログラム支出額合計	24,362,171
次期繰越額	817,450



2014年度のスポンサーシップ・マネジメント・プロジェクトには、2013年11月に発生した大型サイクロンにより被災した世帯への緊急支援、学校(4校)の塀の修復、トイレの設置などの活動が含まれています。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 **ワールド・ビジョン・ジャパン**
 電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
 FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
 e-mail：dservice@worldvision.or.jp